

バナドン茶番

バナドン

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

初代ウルクパ茶番の生みの親、バナナバナナドンキーが創る。新たなギャグ小説。

目次

復活 バナドン茶番	1
本格復活 バナドン茶番	6
暇しゆぎりゆー	10
バナドン茶番が始まるなんて10年速いんだよ!	14
題名なんていらねーよ	18
安定の題名なし	22
数ヶ月ぶりー	25
久しぶりぶり	29

復活 バナドン茶番

さくすいあ「おはこんばんにやちわ。バナドンでちゆ。」

ヨツシー「おはこんばんちわ！ヨツシーだよ！」

カムイ（♀）「お久しぶりですね。カムイです。」

クツパJr「クツパJrです。よろしくおねがいます。」

さくすいあ「M i i v e r s e にあつたバナドン茶番が遂に復活しまちゆ。」

デイディーコング「ちよつと待つて！バナドン茶番知つてる人なんているかなあ。」

さくすいあ「ウルクパ茶番のように適当にしまちゆ。つてデイディーいたのか。」

デイディー「いたよお。」

クツパJr「こうして見ると懐かしいですねえ。」

カムイ（♀）「絵がないし、画像もないし、何か不思議な世界ですねえ。」

デイディー「こうしてみると昔と変わらないn」

さくすいあ「何!?!おいもう一回言つてみる。さもなればコロすぞ！」

デイディー「はやく始めようよ！」

さくすいあ「いいからはやく言え。」

デイディー「うーん…忘れてしまったよ。」

ヨッシー「昔と変わらないね。と言ったよ。」

さくすいあ「そうだ。昔と変わらないんだ！」

カムイ(♀)「別に良いでしょう…ウルクパ茶番ほど知名度はありませんから。」

さくすいあ「よくない！やっぱバナドン茶番やーめた！」

カムイ(♀)「なんで？なんでやめるのですか!？」

さくすいあ「色々な物が変わったのに…僕らだけ変わらないからだ…M i v e r s e が終了したし！うごメモが終了したし！ウルクパ茶番がまた復活し、クツパJ r のキャラがすぐ変わったのに！僕らは何も変わらないんだ！ウル(割愛w)」

カムイ(♀)「バナドンさんは何が言いたかったんですかねえ。」

クツパJ r「あつちの世界のボク、ネタにされて可哀想です…」

デイディーコング「しかもコレはやバい。キャラが4人しかい n」

??? 「お待たせ！」

カムイ(♀) 「コレは?！」

クツパJr 「コレ…ホントに出して大丈夫?」

デイディーコング 「OUTだよね…コレは。」

さくすいあ 「新たなメンバーを加えました。」

クツパJr 『どうも クツパJrです。』

カムイ(♀) 「じゅにくんが二人?!」

クツパJr 「アレは…」

デイディーコング 「ウルトラB o w s e rの方だな。コレはある意味やばい。著作権侵害だし。」

さくすいあ 「これからもよろしく。」

クツパJr 『アザツス!ボク、一生懸命頑張りマツスルマツスル!ハツスルハツスル!』

クツパJr 「ホントだったのですか…冷静なキャラからギャグキャラへと豹変…」

カムイ(♀) 「コレ、打ちきりとかにはならないのですか…?」

デイディーコング 「絶対打ちきりになるって…」

クツパJr 「他の作者さんのキャラを勝手に使うなんて…酷いでs」

さくすいあ 「J rが二人とかおもしろいから別に良いだろ。」

クツパJ r 『別に良いだろウエツ!』

クツパJ r 「いやコレ絶対ウルクパさんに怒られるって…。」

さくすいあ 「このストーリーをどう創ろうと…俺の勝手だ!」

クツパJ r 「コレでいいのですか?」

クツパJ r 『コレでいいのだ。』

さくすいあ 「コレからもよろしくおねがいしまーちゅ。」

ヨッシー「僕の扱いがあああああああああああああああああああああッ！」
つづきます。（※ウルクパのクツパ Jr は、1話限りのゲストなのでご安心を。）

本格復活 バナドン茶番

さくすいあ「暇。だるい！」

ボスパックン「ハヤク。シヨ。ウ。」

さくすいあ「おまえは誰だ！」

ボスパックン「オデ。ハ。ボシユ。パッキユン。ウルクパ。茶番。カラ。引ッ越シ。テキタ。」

さくすいあ「何かおかしなイメージがするな……って新メンバー?!」

さくすいあ「大変だあー！」

デイディー「またおかしな新メンバーが来たろ？」

クツパJr「ウルクパさんのボクはできるだけ見たくはありません。」

さくすいあ「今度は許可を取ってもらったんだあ。よし、新メンバー来い！」

ボスパツクン「オデ。ハ。ボシユ。パツキユン。ウルクパ茶番。カラ。来タ。」
デイディー「なんか凄いな…改めて見ると…」

カムイ(♀)「遅れてすm…ぎやあああああああああッ！」

さくすいあ「驚いたか？コイツが新メンバーだ。」

カムイ(♀)「何ですか！すごく大きいですよ！」

さくすいあ「大きいってエロいの…？」

クツパJr「やめてください。」↑紳士アピール

ボスパツクン「ミナサン。ノ。ナマエ。ガ。知りタイ。デス。」

デイディー「オツス！オイラデイデイ」

ボスパツクン「デイディー。サン。」

カムイ(♀)「私はカムイです。よろしくおねがいます。」

ボスパツクン「カムイ。サン。ヨロシク。オネガ。イシマス。」

カムイ(♀)「は…はい…」

ボスパツクン「アト。ハ。クツ。パジユニ。ア。デスカ？」

クツパJr「そうですねよ。けど僕は君の故郷にいるクツパJrとは別物ですので、悪
しからず。」

ボスパツクン「ハイ。ワカリ。マシタ。テカ。アノ緑ハダレ？」

ヨッシー「ボクはヨッシーだよ！」

ボスパックン「コッシー？」

ヨッシー「ヨッシー！」

ボスパックン「ネッシー？」

ヨッシー「ヨッシーだって！」

ボスパックン「ムッシー？」

ヨッシーw「だからヨッシーだって言ってるだろ！」

ボスパックン「ой то би жс шарйзвчфняцхеавхк」

ヨッシー「え!!？」

さくすいあ「コラー!!!他のユーザーさんのキャラの怒りを買ってどうするんだー!!!!!!」

ヨッシー「え!?アレ、怒ったの？」

さくすいあ「当たり前だr」

ボスパックン「☆□◆●○◎▽◎◎◎★●▲▼△◆☆□■▲□★◆」

ボカ!

ヨッシー「アワワワワワワワワワ！」

キラン…!

カムイ(♀)「ヨツシーさん…」

クツパJr「M i i v e r s eとは違っていじられるようになりましたね。ヨツシーさん。」

デイデュー「さすが新入り…ヘッドバット最強じゃん…。」

続きます

デイディー「だからってゴリアピしないで。」

さくすいあ「しようがないでしょー。黄色いドンキーだから。」

デイディー「そう言う問題じゃないって」

カムイ(♀)「コレだと面白くありません。まだ300文字もありませんよ?」

さくすいあ「うるさいな。ウルクパ茶番よりはマシだろ。」

デイディー「ウルクパ茶番をしれつとデイスるな!お兄ちゃんだろ!」

さくすいあ「デイスって良いでしょ。だって、好きな人ほどこいじりたくなるって聞いたことあるから。」

クツパJr「だからってそうデイスるつてのはちよつと良くありません。ウルクパ

さんごめんなさい。…」

さくすいあ「あなたいたんだ。影薄いな。」

クツパJr「……………」

クツパJrはシヨックで病んだw

カムイ(♀)「大丈夫ですよ。あとでやらせてあげるかr」

さくすいあ「コラ!下ネタは視聴者さんが引くからやめろ!!!」

カムイ(♀)「すみません…。ついクセになってしまつて…。」

デイディー「カムイさん…。Jrの彼女だったんだ…。」

ヨツシーw 「おまえら僕を忘れて酷いよ？昔レギュラーだったのn」

さくすいあ 「あんた誰？」

ヨツシーw 「?!」

ディディー 「バナドン。この小動物をいじめるな。まあ確かに見た目はアレだけどよ。」

さくすいあ 「ディディーの方が酷いよ！」

ヨツシーw 「僕をいじるな！もう怒った…！」

カムイ(♀) 「おこつても怖くありませんがね。」

クツパJ r 「やめましょう！煽りはよくありません！」

ヨツシーw 「ありがとう…君だけだよ…僕を分かってくれるのは…！」

クツパJ r 「あ、そうでした。お名前は？」

ヨツシーw 「…！(ガーン)…！(ガーン)…！ やっぱ忘れられてる…！」

さくすいあ 「ヨツシー！うしろオ！」

ヨツシーw 「何d」

ボスパツクン 「☆◇○○□★▲◆★■▲□☆◆△□○□□▲□▽◆●■▼★□△▲▼！」

ガブリッ！

ヨツシーw 「あわわわわわわわわわわわわわわわわわわわわ！」

ヨッシーは嘸みちぎられたのであったw
めでたしめでたしw
ヨッシーw「全然良くな」

続きます

パナドン茶番が始まるなんて10年速いんだよ!

クツパJr 「今度こそまともにやりましょうよー。ずっとふざけてばかりじゃおもしろくありません」

さくすいあ 「だるいからしよーがねーじゃない。てか『ふざける』は『わざと』よりはマシだし。」

クツパJr 「でも…」

さくすいあ 「うるせーなー。テメー。いちいち細かいこと気にするなよ。」

クツパJr 「いや、細かくあります」

さくすいあ 「そんなにキレるとハゲるぞ?」

クツパJr 「…:分かりましたよ。勝手にしてください。」

さくすいあ 「分かった!ちんちん侍やるぞ!あと、ミスったら切腹な。」

ヨツシー、デイディー、ボスパツクン 「おおー。」

デイディー 「ちんちん!」

ボスパツクン 「チンチン。」

さくすいあ 「おちんちん!」

ヨッシー「びろくん!……ちんちん!」

デイディー「侍!」

ボスパツクン「シヤキーン。チン。チン侍。」

さくすいあ、デイディー「ちんちん侍!?!」

ボスパツクン「モツ。シー。言ワナ。カツタ。」

ヨッシー「紛らわしいから言えなかつたんだよ!おまえら下ネタ言ってるクセに偉そうにするな!」

さくすいあ「ちんちんとは、江戸時代の鐘の音だよ。おまえ何妄想してんだよ…wそんな性格だと童貞卒業どころが彼女すらできないぞ?」

デイディー「じゃあヨッシーは負けを認めるか?」

ヨッシー「分かつたよ。」↑切腹されることをまだ知ってないw

さくすいあ「負けた奴以外ビール飲むか!」

ヨッシー「ちよつと!僕は!?!」

さくすいあ「あんたは切腹だ。」

ザクリツ

ヨッシー「アワワワワワワワワ!」↑切腹されたw

さくすいあ「はく…うまかつた…ヨッシーは死んじやつたし、今度は三人でやるか。」

デイディー「ちんちん!」

さくすいあ「おちんちん!」

ボスパツクン「ヒロくん!…チンチン。」

デイディー「び」

ボスパツクン「侍。」

デイディー「?!」

さくすいあ「ボスパツクン。遅れて言ったな?」

ボスパツクン「違ウ。デイディーサン。ガ。ハヤク。言ッテシマッタ。ノデ。」

デイディー「そうだったか…どうする?…さくすいあ」

さくすいあ「こんなんお前ら二人とも切腹でいいだろ。」↑どうしても勝ちたいw

デイディー「良くないって!せめてどちらかにしろよ!」

ボスパツクン「ナラ。サクシャサン。ガ。切腹。サレテ。」

さくすいあ「なんで僕なんだよ!デイディー切腹だろそこは!」

デイディー「なんでオイラなんだよ!マリカ8DXに呼ばれてないんだぞ!そこはボ
スパツ」

ボスパツクン「オデモ。最近。プレイ。ヤ。ニナツテナ。イ。」

さくすいあ「あーもう!どうすれば良」

カムイ(♀)「……………!!!」

3人「?!」

カムイ(♀)「い…いい加減に…しなさあああああああああ
 (激流砲)」

!!!!!!!!!!
 3人「ぎゃあああああああああああああああああああ
 」

クツパJr「ホント…コレは見る人が不快になりますね…特にウルクパさんは。」
 カムイ(♀)「ヨッシーさんをはじめとした4人さん。反省してください。」

4人「は、はい……………」

つづくw

題名なんていらねーよ

さくすいあ「暇。」

デイディー「コレ何回め？」

さくすいあ「325回目。」

デイディー「(しれっと数えるなよ……)」

さくすいあ「カム子ー」

カムイ(♀)「何です?」

さくすいあ「おまえいい加減彼氏とセックスしろよー。」

カムイ(♀)「……// // //」

クツパ Jr 「また下ネタですか…。大丈夫ですよカムイさん。こう言うのは無視した方が良いですよ。」

カムイ(♀)「はい…。」

さくすいあ「おまえら付き合え」

クツパ「ジュニアはワガハイの物だ。」

さくすいあ「お前どこのクツパ?!」

さくすいあ「じゃあコレにしよう。逮捕されそうな芸能人ランキングTOP10でもやるか!!!第10位は…ウ r」

デイディー「だから!!!それをしてはいけ n」

続く

カムイ(♀)「それより、げっそーって何ですか?」

さくすいあ「ゲツソーとはスプラトゥーンにいるクソすぎるイ」

デイディー「ソレ、インクリングだつて。」

さくすいあ「じゃあカービィシリー」

クツパJr「ソレ、スクイツシーですつて。」

さくすいあ「じゃあ腕を伸ばすゲームにいる紫のへ」

ボスパツクン「キツ。ド。コブラ。」

デイディー「そもそもイカじゃない件。」

さくすいあ「あ、間違えた!!!マリオシリーズにいる白いイ」

クツパJr「ソレ、ボスゲ」

さくすいあ「ゲツソーなんですけど?!?ゲツソーなんですけど?!?何誤った情報を流そう

としてんの?!?」

クツパJr「すみません、間違えました。」

さくすいあ「すみませんで済むなら警察はいらな」

カムイ(♀)「バナドンさんって、警察だったのですか?」

さくすいあ「ギャグよくギャグだつてば☆」

デイディー「(キター)… 毎回安定のしょうもないくだり」

さくすいあ「あ!!?文句言ったな?!コレでもウルクパ茶番よりはマシなんだよ!!!」

デイディー「ど、どうして!!?オイラ何も言つてな」

さくすいあ「やかましいわ!!!上に書いてるだろ!!!ギター…: 毎回安定のしようもない

くんだり”つて!!!”

デイディー「マジ!!?つて本当だぁー………ツ!!!」

クツパJr「それ以前にまずウルクパさんに謝りなさいつて…」

さくすいあ「すみまちなんでちたー………ん!!!」

デイディー「反省してよ」

さくすいあ「お”ま”え”余計なこと”と”言つてんじやね”え”よ”コ”」

カムイ(♀)「すぐキレるのやめて!!!バナドンさん!!!」

さくすいあ「………ゴメン。」

続く

続??????

く…

!!!!

誰がオレ様にボールを当てたんだ

!!!!

」

そして…

久しぶりぶり

さくすいあ「あー、暇。」

デイディー「言うと思ってた。」

???「コラ待てー！ー！ー！！誰がオレ様にボールを当てたんだー！ー！ー！！」

さくすいあ「あ、クルール！」

キングクルール「お前ふざけんなよ！！オレ様にボール当てやがって！！」

さくすいあ「いつだって？」

デイディー「ホラー、前回だよ。前回。」

さくすいあ「いや、アレはクツパJ rが」

クツパJ r w『ボクを呼んだ？』

さくすいあ「ウルクパのじゃねえよ！！」

クツパJ r w『何ですよ。』↑退場された

キングクルール「作者としておまえが責任取れ！！」

さくすいあ「ワニのクセに・・・」

キングクルール「ゴリラのお前に言われたくないわ！！」

クツパ Jr w 『なんでこうなんのおおおおおおおッッッッ!!』↑何もしてないのに
悲惨な目に遭う w

デイディー「ゲストなのに扱いが酷い Jr (ウルクパの) かわいそ w」
クツパ Jr 「おとーさーん。どうしたの?」

ほねクツパ「いやいや、何でもないので♥おとうさんと銭湯へ行くのだ♥一緒に温まるのだ♥」

クツパ Jr 「うん♪」

さくすいあ、デイディー「それでいいのかよ…」

キングクルール「チツ、今日は見逃してやるよ。尺の都合上もうこれ以上続くワケがないしな。」

続く w

カム子「遅刻しました。遅れてすみません…つてあれ？もう終わりました？そうですか…。次回もよろしくです。」

ボスパックン「△××△×○△○○◇×◇△○×□□□!!!」↑ヨツシーに八つ当たりw
 ヨツシーw「アワワワワワワワワワワワワワワワワワワワワワワ!!!」